

2019年1月31日

味の素(株)、2019年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

味の素株式会社（社長：西井孝明 本社：東京都中央区）は、最近の業績の動向を踏まえ、2018年11月7日に公表した2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	事業利益	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	基本的1株当 り当期利益(円)
前回発表予想(A)	1,155,200	95,700	55,000	99.26
今回発表予想(B)	1,146,800	86,200	21,600	39.00
増減額(B-A)	△8,400	△9,500	△33,400	-
増減率(%)	△0.7%	△9.9%	△60.7%	-
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	1,114,784	95,672	60,124	105.76

(注) 1. 当社グループは、IFRSの適用にあたり、投資家、取締役会および経営会議が各事業の恒常的な業績や将来の見通しを把握すること、取締役会および経営会議が継続的に事業ポートフォリオを評価することを目的として、「事業利益」という段階利益を導入しています。当該「事業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費」、「研究開発費」および「一般管理費」を控除し、「持分法による損益」を加えたものであり、「その他の営業収益」および「その他の営業費用」を含まない段階利益です。

(注) 2. 当連結会計年度より、物流事業を非継続事業に分類しています。これにより非継続事業からの利益は、連結損益計算書上、継続事業と区分して表示しています。これに伴い、売上高、事業利益は、継続事業の金額を表示しています。なお、対応する2018年3月期についても同様に組み替えて表示しています。

2. 修正の理由

2018年11月7日公表の業績予想に対して、売上高、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益を修正しました。事業利益の修正は、主として海外食品セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に持分法を適用しているプロマシドール・ホールディングス社の商標権に係る減損損失（(注)4.）を計上したことによるものです。加えて、調味料・加工食品（海外）で、事業を展開している一部の国において競争環境が厳しさを増していること等により、同セグメントの売上高および事業利益は前回予想を下回る見通しです。

また、日本食品セグメントにおいても、主に冷凍食品（日本）での家庭用の競争激化に伴い、同セグメントの売上高および事業利益は前回予想を下回る見通しです。

親会社の所有者に帰属する当期利益の修正は、事業利益が前回予想を下回ることに加え、当第3四半期連結会計期間にその他営業費用で味の素フーズ・ノースアメリカ社に係るのれんの減損損失等（注）4.）を計上したことにより、前回予想を下回る見通しです。

これらの結果、売上高、各段階利益ともに前回予想を下回る見通しとなりました。

業績予想の前提となる為替レートについては、1ドル＝111.00円で設定しています。

（注）3. 上記業績予想は、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しています。実際の業績は、今後様々な要因やリスクによって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

（注）4. 減損損失等の詳細については、本日付け当社プレスリリース「味の素㈱、味の素フーズ・ノースアメリカ社およびプロマシドール・ホールディングス社投資に係る減損損失等を計上」をご参照ください。

以上